

## 安全データシート (SDS)

### 1. 化学品及び会社情報

製品名	よく落ちる尿石除去剤
会社名	クリーンアンドケミカル株式会社
所在地	大阪市住吉区清水丘 3-16-14
担当者名	浅井利幸
携帯番号	080-6175-9603
F A X	06-6654-8577
緊急連絡先	080-6175-9603
推奨用途	ハウスクリーニング業者 工場系清掃者

### 2. 危険性有害の要約

#### 化学品の G H S 分類

##### 物理化学的危険性

金属腐食性 区分 1

##### 健康有害性

急性毒性（経口）	区分 3
急性毒性（吸入：粉じん：ミスト）	区分 1
皮膚腐食性：刺激性	区分 1
眼に対する重篤な損傷性：眼刺激性	区分 1
呼吸器感作性	区分 1
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 2（呼吸器系）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 2（呼吸器系 歯）

##### 環境有害性

水生環境有害性 短期（急性） 区分 2

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

#### G H S ラベル要素

##### 絵表示



##### 注意喚起語

危険

##### 危険有害性情報

H290 金属腐食のおそれ  
H302 飲み込むと有害  
(H314) (H318) 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷  
H330 吸入すると生命に危険  
H334 吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ  
H370 臓器の障害：呼吸器系  
H372 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器系、歯の障害のおそれ  
H401 水生生物に毒性

##### 注意書き

安全対策	<p>粉じん／煙／ガス／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)</p> <p>取り扱い後はよく手を洗うこと。(P264)</p> <p>この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)</p> <p>屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271)</p>
応急措置	<p>環境への放出を避けること。(P273)</p> <p>保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)</p> <p>飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。(P301+P310)</p> <p>飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。(P301+P330+P331)</p> <p>皮膚又は髪に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全部脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)</p> <p>吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)</p> <p>眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)</p> <p>ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。(P308+P311)</p> <p>気分が悪いときは、医師の診察／手当を受けること。(P314)</p> <p>口をすすぐこと。(P330)</p> <p>呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。(P342+P311)</p> <p>汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。(P363)</p>
保管	<p>換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)</p> <p>施錠して保管すること。(P405)</p>
廃棄	<p>内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)</p>

### 3. 組成及び成分情報

化学物質：混合物の区別		混合物		
化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	官報公示整理番号		CAS 番号
		化審法	安衛法	
塩化水素	10%	(1)-215	1-215	7647-01-0
硝酸	10%	(1)-394	1-394	7697-37-2
界面活性剤	非公開	非公開	非該当	非公開

### 4. 応急措置

皮膚に付着した場合	汚染された衣類などは全て脱ぎ、多量の水で洗うこと。皮膚を速やかに洗浄すること。外観に変化がみられたり、痛みが続く場合は、直ちに医師の手当を受けること。
目に入った場合	水で15分以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて、容易にはずせる場合ははずすこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師の手当を受けること。
吸入した場合	新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師の手当を受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。

### 5. 火災時の措置

消火剤	この製品自体は燃焼しない。周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。
特有の危険有害性	加熱により容器が爆発する恐れがある。火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生する恐れがある。不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると

分解して、腐食性又は毒性の煙霧を発生する恐れがある。

特有の消火方法 危険でなければ火災区域から容器を移動する。消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニターつきノズルを用いて消火する。消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。消火の種類に応じて適切な消火剤を用いる。周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。

消火を行う人の保護 消火作業の際は、空気呼吸器や化学用保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意 屋内の場合は作業が終了するまで十分な換気を行う。漏出した場所の周囲にロープを張る等して関係者以外の立ち入りを禁止する。

事項屋内の保護具及び緊急措置 作業の際には必ず保護具を着用して作業する。

環境に対する注意事項 漏出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないよう注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境への影響を起こさないよう注意する。

回収方法 土砂などに吸着させる等出来るだけ取り除いた後、ソーダ灰や苛性ソーダ等で中和し多量の水で洗い流す。

二次災害の防止法 漏出した製品を完全に回収し、周辺の状況を念入りに確認を必ず行うこと。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策 直接人体に接触しないように保護手袋、保護眼鏡などの保護具を着用する。アルカリ性物質との接触を避ける。金属との接触を避ける。作業を行う際は十分な換気を行う。

安全取扱い 注意事項 液が飛散しないように注意深く取り扱うこと。  
洗浄中は顔を近づいてガスを吸い込んだりしないこと。  
金属やコンクリートなどの液が付着した場合直ちにふき取りこと。  
塩素系の薬剤と混合不可（塩素ガスが発生）  
取り扱い後はよく手を洗うこと。

保管 技術的対策 直射日光を避けて、換気の良い冷暗所に密閉して保管する。

混触危険物質 10. 安全性及び反応性を参照

保管条件 アルカリ製品、塩素剤と離して保管する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度（産衛学会）	許容濃度（ACGIH）
塩化水素	未設定	2ppm（3.0mg/m <sup>3</sup> ）	2ppm（2.98mg/m <sup>3</sup> ）
硝酸	未設定	2ppm（3.0mg/m <sup>3</sup> ）	2ppm

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値／天井値
塩化水素	未設定	未設定
硝酸	未設定	未設定

許容濃度（ACGIH）参照先：<https://www.acgih.org/>

保護具	呼吸器の保護具	保護マスクを着用すること。
	手の保護	保護手袋を着用すること。
	眼の保護	側板付き、又はゴーグル型保護眼鏡を着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	長袖作業衣、長靴等
	衛生対策	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。

## 9. 物理的及び科学的性質

物理状態	液体
形状	液体
色	無色透明
臭い	刺激臭
融点／凝固点	データーなし
沸点又は初留点	データーなし
及び沸点範囲	
可燃性	データーなし
爆発下限界及び	
爆発上限界／可燃限界	下限 データーなし
	上限 データーなし
引火点	引火せず
自然発火点	データーなし
分解温度	データーなし
pH	強酸性
動粘性率	データーなし
溶解度	水に易溶
n-オクタール／水分配係数	データーなし
蒸気圧	データーなし
密度及び相対密度	データーなし
相対ガス密度	データーなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	加熱により塩化水素ガスを発生する。
危険有害反応可能性	塩素剤と混合すると有毒な塩素ガスを発生する。 アルカリと混触すると、反応して発熱する。 金属やコンクリートなどに対し腐食性がある。
避けるべき条件	加熱、塩素剤
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

## 11. 有毒性情報

急性毒性	経皮	急性毒性推定値が 238mg/kg のため区分 3 とした。
	経皮	急性毒性推定値が 5000mg/kg 超のため区分該当なしとした。
	吸入	(気体) GHS 定義による気体でない。 (蒸気) データー不足のため分類できない。 (粉じん・ミスト) 急性毒性推定値が 0.42mg / l のため区分 2 とした。
皮膚腐食性/皮膚刺激性	製品の pH が 1 のため酸 (pH ≤ 2) とし、区分 1 とした。	
眼に対する重篤な損傷性製品	製品の pH が 1 のため酸 (pH ≤ 2) とし、区分 1 とした。	
眼刺激性		
呼吸感作性	区分の成分が 8.75% のため、区分 1 とした。	
皮膚感作性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上に含有しないため、区分に該当	

		しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度（0.1％）以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
生殖細胞変異原性 発がん性		データ不足のため分類できない。 （生殖毒性）
		データ不足のため分類できない。 （生殖毒性・授乳影響）
特定標的臓器毒性 （単回ばく露）		データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性 （反復ばく露）		区分1（呼吸器系）の成分が8.75％のため、区分2（呼吸器系）とした。
誤えん有害性		区分1（呼吸器系）の成分が8.75％のため、区分2（呼吸器系）とした。 区分1（歯）の成分が8.75％のため、区分2（歯）とした。
		動粘性率が不明のため、分類できないとした。
<hr/>		
1 2. 環境影響情報		
水生環境有害性 短期 （急性）		（毒性乗率×10×区分1）＋区分2の成分合計が96％のため、区分2とした。
水生環境有害性 長期 （慢性）		（毒性乗率×100×区分1）＋（10×区分2）＋区分3の成分合計が0％のため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
生態毒性		データなし
残留性・分解性		データなし
生態蓄積性		データなし
土壤中の移動性		データなし
オゾン層への有害性		データ不足のため分類できない。
<hr/>		
1 3. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		水で希釈後、ソーダ灰、苛性ソーダで中和後、希釈して排水を行う 産廃として許可を取得した産業廃棄物業者に委託処理を行う
空き容器		内容物を完全に処理の上適切に処分をする。
<hr/>		
1 4. 輸送上の注意		
国連番号		【塩酸】1789 【硝酸】2031
品名		塩酸 硝酸
国連分類		クラス8（腐食性物質）
容器等級		III
国内法令	海上規制情報	船舶安全法の規制に従う
	航空規制情報	航空法の規制に従う
注意事項		輸送に関しては直射日光を避け、容器の漏れがないことを確かめ 落下、転倒、損傷がない様に積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
<hr/>		
1 5. 適用法令		
労働安全衛生法		特定化学物質第3類（特定化学物質障害予防規則第2条第1項第6号） 塩化水素 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2） 塩化水素 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2） 塩化水素（安衛則別表第2の番号：309）（9.6％） 腐食性液体（労働安全衛生規則第326条） 歯科健康診断対象物質（法第66条第3項、施行令第22条第3項） 特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質 （令和5年7月4日基発0740第1号・5該当物質の一覧） 塩化水素
労働安全衛生法（令和8年		名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令

施行分)	第 18 条第 2 号～第 3 号、安衛則第 30 条別表第 2)
	塩化水素
	名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2 第 1 項、施行令第 18 条の 2 第 2 号～第 3 号、安衛則第 34 条の 2 別表第 2)
	塩化水素（安衛則別表第 2 の番号：309）(9.6%)
	名称を表示すべき危険物及び有害物（法第 57 条）硝酸
	名称を表示すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2）硝酸
	特定化学物質第 3 類物質（特定化学物質障害予防規則第 2 条 1 項、6 号）
	硝酸
毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）	非該当
消防法	非危険物
水質汚濁防止法	指定物質（法第 2 条第 4 項、施行令第 3 条の 3）塩酸
	有害物質（法第 2 条、施行令第 2 条、排水基準を定める省令第 1 条）硝酸
大気汚染防止法	有害物質（法第 2 条第 1 項第 3 号、施行令第 1 条）塩酸
	特定物質（法第 17 条第 1 項、施行令第 10 条）塩酸
海洋汚染防止法	有害液体物質（乙類物質）（施行令別表第 1）塩酸
	施行令別表第一有害液体物質 Y 類物質硝酸
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第 1 の 16 の項塩酸
船舶安全法	腐食性物質（危規則第 3 条危険物告示別表第 1）塩酸
	腐食性物質（危規則第 3 条危険物告示別表第 1）硝酸
航空法	腐食性物質（施行規則第 194 条危険物告示別表第 1）塩酸 硝酸
港則法	その他の危険物・腐食性物質（法第 20 条第二項、規則第 12 条危険の種類を定める告示別表）
労働基準法	疾病化学物質（法 75 条第二項、施行規則第 35 条別表第 1 の 2 第 4 号 1)

## 16. その他の情報

### 参考文献

原料製造元メーカーの提供資料  
N I T E G H S 区分結果一覧  
J H S Z 7 2 5 2 G H S に基づく化学物質等の分類方法  
J H S Z 7 2 5 3 G H S に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法  
-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS）  
経済産業省 事業者向け G H S 分類ガイダンス

### その他

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理・化学的性質、危険有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。あくまでも参考情報として提供するものであります。また、注意事項は通常取り扱いを対象としたものですので、特殊な取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全策を実施の上、ご利用ください。この情報は、新しい情報を入手した場合、予告なしに改訂されることがあります。